

科目名	吃音			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15回	時間数	30時間 (1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科3年	必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕							
吃音および発話・発語の非流暢性についての理解を深める。							
〔授業全体の内容の概要〕							
吃音について理解し、それに対する評価法と治療・訓練の方法を学ぶ。							
〔講師の実務経験〕							
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕							
吃音は言語障害の範疇においても、得意な様相を示している。その特性を知り、状態を把握して言語聴覚士として適切な対応がとれる知識・技能の獲得を目指す。							
回数	講義内容						
1	吃音とは何か 吃音の症状やエピソード						
2	吃音の定義						
3	吃音発生のメカニズム						
4	吃症状（その1）						
5	〃（その2） D A F 効果実験						
6	吃症状の特徴把握						
7	基本機能検査						
8	吃に関連する検査						
9	心理検査						
10	訓練の種類と理論的背景						
11	環境、調整						
12	間接的言語訓練						
13	直接的言語訓練						
14	メンタルリハーサル、自立訓練等						
15	吃音に関わるトピックス、セルフヘルプグループ等						
【 準備学習・時間外学習 】							
【 使用テキスト 】							
書籍名		著者名		出版社			
エビデンスに基づいた吃音支援入門		菊池 良和		学苑社			
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】							
試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。							